

# 感染拡大、制度変更…転機の年

## 2021年 医療・健康の重大ニュース

2021年は新型コロナに始まり、コロナで終わるような1年だった。全国や道内で起きた医療や健康に関するさまざまな出来事から心に留めておきたい重大ニュースを、北海道新聞暮らし報道部の医療担当記者が選んだ。それらを紹介し1年間を振り返る。

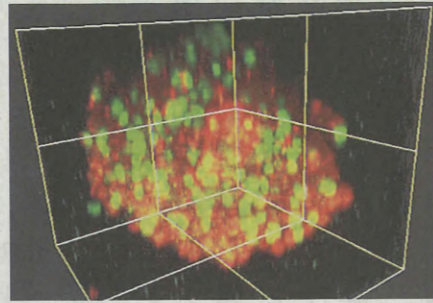
(編集委員 岩本進)

### 2021年 医療・健康の重大ニュース(順不同)

- ◆ 不妊治療の助成を拡充、22年度から保険適用を拡大
- ◆ 新型コロナの感染続く、国内でもワクチン接種開始
- ◆ 北大の研究グループが、がん幹細胞を創る手法を発見
- ◆ 不適切発言や不正支出で揺れる旭医大、学長解任へ
- ◆ 増え続ける国民医療費、19年度は44兆円と過去最高
- ◆ 22年4月から子宮頸がんワクチンの勧奨接種を再開

■ 北大の研究グループががん幹細胞を創り出す新たな手法を発見(3月30日)

北大大学院医学研究科の田中伸哉教授らが発見し、英科学誌に論文が掲載された。がん幹細胞は「がんの元になる細胞でがんの親分」。放射線や薬物の治療が効きにくく、何年も体内にとどまり、再発などの要因となる。がんの組織の中



北大の研究グループがゲル上で創り出したがん幹細胞、円形の緑色が個々の幹細胞(記者発表のプレスリリース資料から)

### がん幹細胞を創り出す手法 北大が確立

吉田晃敏学長の解任申し出の理由を説明する旭医大長選考会議の西川祐司議長(左から2人目)。西川氏は11月に次期学長予定者に選ばれた



■ 混乱続く旭医大。吉田学長の解任申し出(6月24日)、学長予定者に西川氏

昨年11月、大学病院の新型コロナウイルス感染者の受け入れ拒否を機に表面化した吉田晃敏学長の不適切な発言や

には、数が少なく、検出が難しかった。田中教授らは2種の化学成分を合成した特殊なゲルにがん細胞をまくと、24時間という短時間で幹細胞が創り出されることを確認した。各患者に適した再発予防薬の特定や、がん幹細胞の治療薬開発などへの貢献が期待される。

### 旭医大続く混乱 吉田学長が辞任届提出

道北の医療を支える要として、医療者を育てる教育機関として、再発防止と信頼回復が喫緊の課題だ。

■ 19年度の国民医療費は44兆円、国民1人35万円と共に過去最高(11月9日)

病気の増加や治療費の高騰が押し上げている。財源の内訳は、国民や企業の保険料が5割、国と地方の公費が4割、患者が窓口で支払う自己負担が1割。一方、一定の収入がある75歳以上の医療費窓口負担

不透明な支出などを巡る問題は、感染者受け入れを求めた古川博之病院長の解任(1月)や、教授ら学内有志による学長の解任請求(2月)などに発展した。

学長選考会議は吉田学長に総額700万円の不正支出や9件の職員へのパワーハラスメントがあったと認定、文部科学相に解任を申し出た。一方、吉田学長は直前の6月17日に辞意を表明、文科相に辞任届を出した。大学は11月、次期学長予定者に西川祐司副学長を選んだ。

### 国民医療費総額 過去最高の44兆円超す

厚労省は、人などの原因となすピロリ菌の感染を防ぐワクチン接種を、22年4月か

■ 22年4月からワクチン勧奨接種が決まる(11月26日)

厚労省は、人などの原因となすピロリ菌の感染を防ぐワクチン接種を、22年4月か

を現在の1割から引き上げる医療制度法が6月に成立。から実施する方向にしている。後期高齢者加入者の約20となる。増える高付を見直し、財源役世代の保険料のえるのが狙いだ。

厚労省は、人などの原因となすピロリ菌の感染を防ぐワクチン接種を、22年4月か



■ 不妊治療の助成拡充、所得制限撤廃(1月1日)。

22年度から保険適用拡大

体外受精と顕微授精を対象にした国の助成制度が拡充された。助成額は、従来の初回30万円、2回目以降15万円に対し、2回目以降も30万円へと増額。回数も従来は妻が治療開始時40歳未満の場合、最大6回までが、子ども1人につき6回と改めた(40歳以上43歳未満は、子ども1人につき3回までに)。夫婦合計の所得制限は撤廃した。

菅義偉前首相が昨年打ち出した少子化対策の一環。不妊治療は現在、原因検査など一部を除き公的医療保険が適用されない。22年4月から保険適用の範囲が拡大されることになった。厚生労働省の実態調査によると、体外受精(顕微授精は含まない)の費用は1回平均約50万円かかる。

■ 新型コロナの感染が拡大、道内でもワクチンの接種が始まる(2月19日)

道内の新型コロナウイルス感染症は、昨年から続く流行の第3波が収まらぬまま21年を迎え、道民の暮らしは長期間コロナに揺れた。

また、6月末に道内でデルタ株を確認。7月以降、第5波が始まった。新規感染者のピークは、東京五輪後8月18日の595人。同日27日にまん延防止等重点措置が緊急事態宣言(9月30日)に移行し、10月にはほぼ沈静化したIIグラフ。道内の累計感染者は4万7758人、死者1021人(13日現在)。20

■ 相次ぐ変異株 道内でもワクチン接種進む

3月上旬に道内で、変異したアルファ株を確認。4月以降、感染者が増え第4波に。5月16日に緊急事態宣言(6月20日)が出て、5月21日に新規感染者が727人とピークに達した。

